

2004年5月31日

吉田望事務所会社概要

設立	昭和40年
資本金	1000万円
登記	東京都港区
社名	株式会社ノゾムドットネット 通称 吉田望事務所
本社所在地	東京都港区虎ノ門四丁目一番十八
業種	ブランド・メディア・セールスコンサルティング ストラテジック・プランニング デザイン リサーチ インターネット事業投資事業他
経営者	代表取締役社長 吉田 望 取締役 岡 康道(タグポート社長) 取締役 團 紀彦(團紀彦建築事務所所長) 顧問 塩野 七生 顧問 ギ・ソルマン 監査役 黒川 文雄

・ 起業に向けての志

このたび、10月1日付けをもって株式会社電通を退社し、独立することといたしました。

皆様「フィールド・オブ・ドリームス」という映画をご覧になったでしょうか。私は未来というとうもろこし畑の中に幻の野球場を見たのです。それは人にまだうまく説明が出来ず、自分でもまだ半信半疑なのですが、これからの人生を賭けるに足るテーマがそこにある天啓を感じました。

1988年頃に、「メディア 経済・経営 技術」という補助線を思いつきました。その数年後マルチメディアやインターネット、デジタル化という言葉がその後の世の中を支配する言説となりました。電通という名のもとに、その名があったからこそ私がおさめた成功、その蓄積のすべてを電通に恩返しし、私はそれから離れる時が来たのです。

今度はその数倍の予兆をもって「ブランド IT (宗教) 社会学」という軸が頭に浮かんできました。ここでいうITとは単なる情報技術ではなく、それが変える人間社会の本質的な枠組み - Individual(個人)と Team (組織) の関係を意味します。

善と悪を分かち、名声と金銭を交換する装置としての「ブランド」が、情報社会において如何に対応すべきなのか、を突き詰めて探求する時代を感じました。

「メディア 経済・経営 技術」という軸は、急激な情報化をもたらし、産業の急激な発達を促す一方で、私達は従来持ってきた社会資本、価値観の共有と信頼感覚を見失い、

あるいはそれらをもたらす正しい政治や宗教の存在基盤を傷つけてきたのではないのでしょうか。

私たち人間は太古から、信頼を交換できる仲間を見つけあうゲームを繰り返してきました。その信頼をもたらすのは、献身、独創性、勇気、名誉心、自律と自制心、規範意識、リーダーシップ。インターネット通貨（株券）が流通する一方で、私たちは今、こうした金銭に換算できない「力量（Virtus）の通貨」を交換できる仲間を探す旅に、でなければいけないのではないかと。

「カオスエッジ」というのですが、創造や革新が起こるのは、企業ブランドの当たり前の内部でも、道を踏み外した外部でもなく、そのぎりぎりの、意味論的な「堀」の上を、誤らずに歩む能力でしょう。その最大限の堀のありかを正しく示すのが、ブランドを守りその地平を広げる力量であり、それは特に今後の「直接金融制度」のもとでは、経営者自らの仕事となることでしょう。

従来の経団連と言う経営者共同体と、派閥という社内共同体が崩壊した後、多くの日本人経営者は情報疎外という社内的孤独を味わっているのではないかと、彼らが経営技術と言う意味でも自我と規律を守る共同体という意味でも、非常に脆弱な環境にいる状況を私は長らく見てきました。

私は「ブランドー情報化（宗教）社会学」という軸の上に新しい合理的教義を作り出し、「力量（Virtus）の通貨」を交換できる新しい共同体を作りたい、そしてブランド経営者の孤独を癒し、その力量を増やす仕事を、と思ったのです。

「意表を含む正解 = Surprising yet right」。43年間の勤勉な努力、放蕩と回り道、それなりに善悪の幅広い職業遍歴の末に気がついたのですが、親友岡康道にインスピレーションを得たこのコンセプトがおそらく私の天職です。私は業種にこだわらずそれを探す「共同体」を経営者とともに、クリエイティブファーム、コンサルタントファーム、アカウントファーム、インベストメントファームあるいは建築家や研究者や、若手のベンチャー企業家、精神科の医者やスポーツドクター、芸術家、画商たちとともに、つくっていった見たいのです。

このわけの分からない問題意識が、今のところ私の「フィールド・オブ・ドリームス」であり、これをよりやさしく、具体的に指し示していく事が出来れば、私の仕事は成功していくのではないかと思います。

・ポリシー

nozomu.net は「意表を含む正解」を模索する「嘘をつかないブラックボックス」です。コンセプチュアルと実践、科学と熱狂、理想と現実、右脳と左脳、テクノロジーとアートの中間の Chaos が、住み家です。

nozomu.net のクライアントは、企業、ブランド、人（経営者やコンテンツ製作者、ブランドマネージャー等）です。それらが同質の場合に nozomu.net は最良の能力を発揮します。

nozomu.net はクライアント（企業、ブランド、人）の自己表現、自己実現、自己評価のプロセスを改善し、ブランドとブランド経営者に Virtus（力量）をもたらします。

nozomu.net はコンサルではありません。コンサル・オブ・コンサルとはいえるでしょう。nozomu.net は問題解決に最良の人材を見つけ、現在取り組んでいる問題解決の枠組み自体を再構築します。コンサルとクライアントの関係を最良にたもつための Mediator を務めます。

nozomu.net はクライアントである経営者やコンテンツ製作者、ブランドマネージャー、コンサルを務める社内の人材、コンサル会社、投資銀行、クリエイターとともに、資本市場、組織とモチベーション、クリエイティブ、メディア、テクノロジーに関する新しい知見=未来経営者の Virtus（力量）について、共に学びたいと考えています。

nozomu.net は大企業の内部、とりわけ当該企業の中に最良のコンサルがいる場合が多いと考えます。彼らを見つけ、能力の発揮を妨げる原因、組織、不遇な境遇、特定の経営者との依存関係、あるいは社内の嫉妬や過度の競争等、日本企業特有の問題から、彼らを守り、彼らの Virtus(力量)を増やします。

nozomu.net はクライアントとともに Virtus（力量）を高めたいと考えています。

- (ア) 正直さを直感できる人
- (イ) 意表を含む正解を期待する人
- (ウ) 善悪の幅が広く最後には善を選ぶ人
- (エ) 組織というよりその人個人にむけての奉仕である事をその組織に説得できる人 等

nozomu.net は研究システムでもあります。テーマはインターネットや直接金融化、グローバル化がもたらす日本社会、日本企業、日本人の価値観の変容であり、21 世紀におけるその新しい政治、宗教等の社会インフラ基盤の再構築です。

nozomu.net は期間を限定した厳密な秘密保持契約を好みます。未来永劫の秘密を好みません。意表は常に捨て去らねば新しい意表は生まれないと考えています。nozomu.net とクライアントの信頼関係が問題解決に繋がる事を、理解して頂きたいと考えています。nozomu.net の役割が果せるかどうか、慎重に検討させて頂いてから仕事をさせていただきます。

・履歴

吉田 望（よしだ のぞむ）

1956 年 12 月 文京区生まれ

1980 年 3 月 東京大学工学部計数工学科卒

（卒業論文「東京の地価・西高東低現象の数理的分析」）

1980 年 4 月 株式会社電通入社 連絡総務配属（マーケティング局預り）

1981 年 4 月 銀座第二連絡局 中村部（当時）勤務

オーディオフェア・フジフィルムブース作業

日本ディスプレイ大賞のディスプレイデザイン奨励

1984 年 4 月 ラジオテレビ局勤務 FM 東京・文化放送担当等

1986年4月 社内留学制度により慶應義塾大学大学院経営管理研究科入学
1988年3月 同科首席卒業（経営学修士取得）
1988年4月 総合計画室勤務
1989年7月 株式会社電通総研出向
1989年7月 社内論文「ネットワーク時代の到来と21世紀電通」にて八火賞受賞
1997年7月 研究3部長
1999年1月 メディア・コンテンツ統括局調査部長（電通総研研究主幹兼務）
2000年3月 電通ドットコム非常勤取締役
2000年7月 21世紀計画室兼務
2000年9月 株式会社電通 退社
2000年10月 株式会社ノゾムドットネット（吉田望事務所）代表取締役社長
2001年12月 国際大学 GLOCOM フェロー
2002年6月 株式会社ゼロ 非常勤監査役
2003年10月 株式会社 am3 代表取締役会長
2004年1月 スカイマークエアラインズ株式会社 常勤監査役
2004年7月 株式会社スカイパーフェクト・コミュニケーションズ 非常勤取締役

< 著書・共著・主筆 >

「情報メディア白書」 電通総研 1993年～1996年
「マルチメディア社会の実像」 生産性出版 1994年
日本の潮流 「動詞型生活者の誕生」電通総研 1995年
「21世紀大予言」共著 電通総研 1997年
「デジタルで変わるメディアビジネス」共著 MdN コーポレーション 1998年
「放送メディアの経済学」共著 中央経済社 2000年
「ブランド」 岡康道 / 吉田望 宣伝会議 2002年
「日本の産業システム 5 情報経済システム」 共著 NTT 出版 2003年
「ブランドII」 岡康道 / 吉田望 宣伝会議 2004年

< 官庁・審議会委員等 >

経済企画庁物価構造政策委員会 情報サービス分野専門委員 1997年
郵政審議会通信委員会 専門委員（1999年）
郵政省 放送行政局 次世代放送コンテンツ審議会委員（2000年） その他

< その他 >

早稲田大学非常勤講師 1996年～
上智大学非常勤講師 1996～98年
慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所非常勤講師 2002年～

・役員紹介

團 紀彦(だん のりひこ)

1956年 神奈川県生まれ

1979年 東京大学工学部建築学科卒業 同大学卒業計画賞受賞

1982年 東京大学大学院修了(榎文彦研究室:専攻/建築及び都市デザイン) ARCH STUDIO
設立

1984年 米国イエール大学建築学部大学院修了

1986年 株式会社團・青島建築設計事務所設立

1993-97年 東京工業大学工学部建築学科 専任講師

1994年 名称変更 株式会社團紀彦建築設計事務所

岡 康道(おか やすみち)

1956年 佐賀県生まれ

1980年 早稲田大学法学部卒(株)電通入社

1985年 クリエーティブ局へ異動

1999年 クリエーティブ・エージェンシー「TUGBOAT」を設立
クリエイティブ・ディレクター、CMプランナー

<主な受賞歴>

TCC最高賞(3部門同時受賞)

サントリー「ボス」

フジテレビジョン「フジテレビが、いるよ。」

JR東日本「東北大陸から。」

プロバイダーゼロ「ゼロ」

1997年 JAAAクリエイター・オブ・ザ・イヤー賞

1998年 ニューヨークADC賞 セガ・エンタープライゼス 「セガは倒れたままなのか」

1999年 IBA賞 セガ・エンタープライゼス 「企業」

2000年 ギャラクシー賞 日立製作所「ガゼット」